

はじめに

私たちは子どもの頃から、周りの大人に「学校を卒業したら、社会に出て働く」と言われ続けて来ました。社会全体でも、このような直線的な移行が社会的自立に向けたステップであると考えられていました。

学校から社会への移行期は、さまざまな人との関わりを通じ、思春期から青年期へと心身を成長させながら、心理的・社会的な自立をとげて大人の仲間入りを目指していく時期とも重なります。中にはそうした自立の過程で、「不登校」や「ひきこもり」状態に陥り学校や職場から離れてしまったり、親や周りの大人への反発から「非行」に走ってしまったり、今まで気が付かなかった「発達障害」に悩んだりして、社会的自立へのステップで立ち止まってしまうことがあります。

今、大人である私たちに求められているのは、そうした子どもや若者が社会の中で他者とのつながりを持ちながら自身の課題に取り組み、自分らしく生き抜く力を身に付けられるよう手助けをすることではないでしょうか。

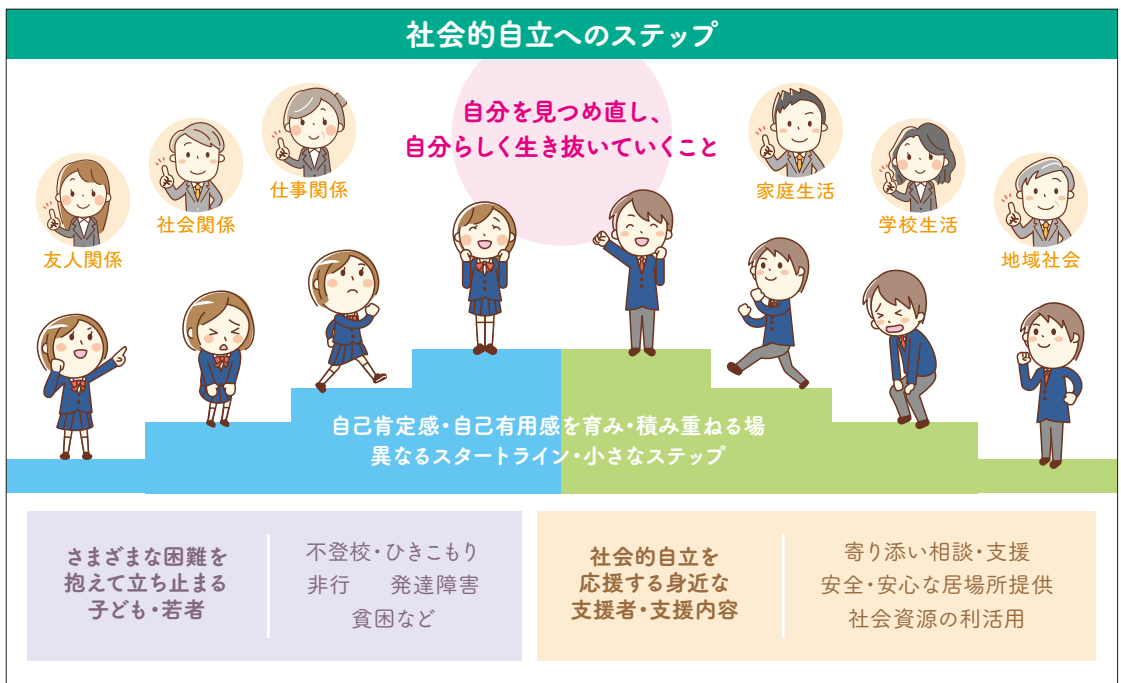
その社会的自立へのステップは一様ではなく、さまざまな理由で立ち止まっている子どもや若者には、一人ひとりに異なるスタートラインがあり、そこに向かうための支援が求められています。

この支援ガイドは、さまざまな人とのつながりや支援を受けながら、自分らしく生きるために一歩を踏み出した当事者の体験談などを通して、社会的自立に向けたさまざまなステップを取り上げています。

また、さまざまな立場の支援者からのメッセージを通して、支援機関・団体等の役割、社会的資源に関する情報を紹介しています。

今、自分の進路で悩み立ち止まっている君へ、そして支援する保護者や支援者に向けて、この支援ガイドが「自分らしく生きること」を考えるきっかけになれば幸いです。

群馬県子ども・若者支援協議会



もくじ

- 1 鼎談** 若者が抱える「働き始めることへの不安と、その対応」…………… 2

- 2 学校から社会へ**…………… 4
 - 01 「就職試験」もう一度挑戦します【A 高校3年女子】
 - 02 産業技術専門校で更に学んでから就職します【B 工業高校定時制4年男子】
 - 03 職場体験で少しずつ自分に自信を持てるようになりました【C 高校定時制3年女子】
 - 04 卒業したら就労移行支援事業所に入所します【D 高校定時制4年男子】
 - 05 一般企業で働くための勉強をしています【E 特別支援学校高等部3年男子】

- 3 就労支援機関を利用して社会へ**…………… 13
 - 06 ハローワークを初めて利用しました【20 代女性】
 - 07 サポステで“一歩ずつ進んでいきましょう”と言われました【20 代男性】
 - 08 発達障害があっても働けるようになる【19 歳女性】
 - 09 一般企業の障害者雇用枠で再就職を目指します【21 歳女性】

- 4 支援者に支えられて社会へ**…………… 20
 - 10 フリースペースで自分を見つめ直すきっかけになりました【20 代女性】
 - 11 ひきこもっていた娘が社会とのつながりを持ち始めたきっかけ【50 代母親】
 - 12 進む道を自分で決められるように応援しています
【NPO 法人カウンセリング&コミュニケーション・ミュー（CCM）支援員】
 - 13 児童養護施設を退所して念願の一人暮らしを始めたのですが
【「ヤング・アシストいっぽ」支援コーディネーター】
 - 14 人の気付きを大切にする支援を行っています【前橋保護観察所 保護観察官】
 - 15 ひきこもる若者の就労を支援しました【役場福祉課 担当職員】
 - 16 外国人の子どもたちを支援しています【NPO 法人 Gコミュニティ代表】

